

# 民主化闘争情報

No. 966

2017年12月13日

発行 日本鉄道労働組合連合会

(JR連合)

12月8日、JR連合のジェイアール・イーストユニオンは、新潟エリアの設備職場においてJR入社世代の組合員をJR東労組から組織拡大した。

今回の組織拡大は、本人の労働組合のあり方・運動に対する高い意識と新潟地本や職場の組合役員らの地道な世話役活動が融合し結実したものである。

## 東日本エリアでJR入社世代を組織拡大

### JR連合8万1千人で大歓迎！

### 今こそ「あるべき労働組合像・労使関係像」の実現を！

## JR東労組は世界一の鉄道会社の「あるべき労働組合」なのか？

JR東労組は、約1年前の2017春闘においては、「ストライキ権確立」に向けた一票投票を行うとともに、臨時大会を開催して代議員による投票をも実施し、実質的にストライキ権を確立したとされている。

しかし、JR東労組は、いつの間にか「実質的ストライキ権確立」を「いつでもたたかえる体制」という表現にすり替え、そして、春闘交渉はこの「実質的ストライキ権確立」をちらつかせる中で進められた。

首都圏輸送の中核を担い、世界一の鉄道会社とも称されるJR東日本の労使関係では、第一組合が、国鉄改革の趣旨を置き去り「労使共同宣言」締結者の責任を放棄し、ストライキ権を突き付けて労使交渉が行われており、異常であるとは言いようがない。また、妥結結果は、「格差ベア反対」と言いながら、結局は一般組合員と管理職組合員の格差を大きく広げることとなり、主張内容と大きく矛盾するものであった。JR東日本で働く組合員の皆さんはこの間のJR東労組の運動を本当に支持しているのだろうか！？

## 組合員不在のJR東労組運動に見切りをつけませんか？

2017年4月18日、産経新聞朝刊の一面トップ記事で、「JR東労組スト権『確立』」なる見出しの報道がなされたが、JR東日本への取材では、会社は「話し合いを基本としてきたこれまでの路線とは一線を画す」と不快感を示しているとのことであった。

これから2018春闘に向けた議論が本格化する。JR東労組は、前春闘で確立した「いつでもたたかえる体制」を維持したまま、実質的ストライキ権をちらつかせて労使交渉を展開するものと思われる。「いつでもたたかえる体制」とは、建設的な話し合いによる課題解決能力のなさをJR東労組自らが露呈するものであり、組合員の将来、会社の将来を考えているとはとても言い難い。

## 今こそJR連合・JREユニオンに結集しよう！